

「共生の森」の生き物 平成27年1月27日

スズバチ (スズメバチ科ドロバチ亜科)



木の枝に直径6センチくらいの泥の塊がついていた。泥を固めて巣をつくるドロバチの巣。

巣の形が鈴(土鈴)に似ていることからスズバチ。

巣の中は、個室に分かれている。アオムシなどを麻酔して入れておき、それを幼虫が食べて大きくなる。成虫は体長3cmくらいある大きな蜂。こんな蜂にも天敵がいて、幼虫は寄生蜂などに寄生される。

以前、J山の間伐作業の時に壊れた巣からは、スズバチの幼虫が出てきたほか、壁に穴の開いた個室には、ハエか何かの蛹がたくさん入っていた。この巣にも穴が開いている。この個室の住人も残念ながら何者かに寄生されているものと思われる。

ミサゴ



電柱の上で魚を食べる



ムクドリ



カワラヒワ



ツグミ



ヒヨドリ



アオジ



ハシブトガラス

見かけた植物・生き物



スイセン



スイセン



ウメ



マサキ



ナンキンハゼ



タヌキの糞に センダンの実



センダン

一番寒い季節ではあるが、「共生の森」で一番見通しの良い季節

イラガ (イラガ科)



イラガの幼虫は、世間で最も嫌われている昆虫のひとつ。刺されるとかなり痛い。

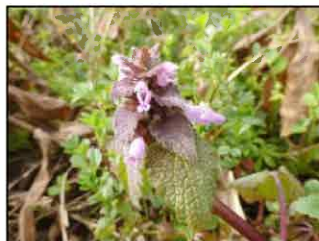
そんな嫌われ者も、冬にはいろんなデザインで楽しませてくれる。本人たちは鳥のフンに化けたつもりか。

幼虫時代、毒のあるトゲで身を守るイラガ。サナギになる時は、硬い殻で身を守るが、安心ではない。その殻に穴を開けて産卵するイラガ専門のハチがいる。「共生の森」でもイラガとハチの不思議な関係が繰り広げられている。

見かけた植物・生き物



ホトケノザ



ヒメオドリコソウ



セイウタンポポ



カラスノエンドウ



ウメ



ナルトサワギク

冬の樹木



シンジュ



センダン



シナサワグミ



ヌルデ



エノキ



ナンキンハゼ



オニグミ



イヌビロ



タヌキの糞

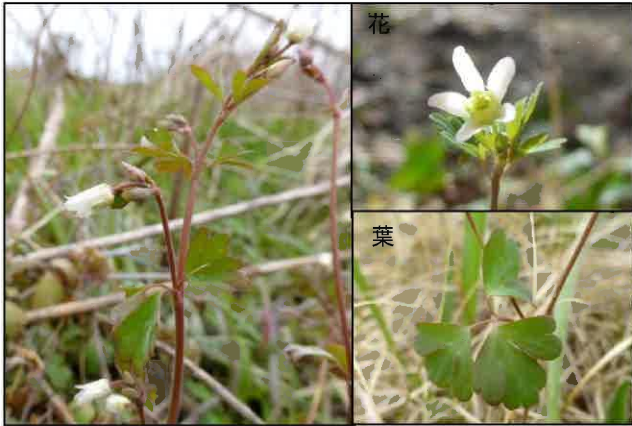


メジロ

タヌキのフンにはセンダンの実が多く冬の厳しさを感じるが、メジロが飛び回り、ウグイスが鳴きだした。

「共生の森」の植物 平成27年3月15日

ヒメウズ (キンポウゲ科)



春先に5ミリくらいの小さな花を咲かせるヒメウズ。野山を歩いていてもつい見逃してしまう。白く花びらのように見えるのは額片で花びらは中心の黄色い部分。葉はクローバーのように小葉3枚で1セット。小葉はさらにさらに3つほどに切れ込んでいて特徴のある植物。

名前の由来は根が、トリカブトの根(烏頭=ウズ)に似ていることから小さなウズで姫烏頭。

「共生の森」で見かけるようになったのは、昨年から。土砂に紛れてやってきたのか。外来種の侵入が多い「共生の森」では、久しぶりの在来種の新人。

メジロ



春に向けて



ビワ



シナサワグルミ



ハラビロカマキリ卵塊



チョウセンカマキリ卵塊

見かけた植物・生き物



オオイヌノフグリ



カラスノエンドウ



ヒメオドリコソウ



ホトケノザ



アケビ



ナワシログミ

分布を広げる植物



ワシントンヤシ



キミガヨラン

鳥が種を運んで広がる

日本では結実しないといわれるが何らかの方法で広がる？

3月7日 「共生の森」植樹祭



1,590本の苗木を植栽 参加者583名

植栽樹種(31種ほか) サークル植え

エノキ・クヌギ・ケヤキ・コナラ・リュウブ・ムクノキ・アラカシ・ウバメガシ・クロマツ・クスノキ・タブノキ・ヤマモモ・ソゴウツギ・タニウツギ・ヤマハギ・アキグミ・ネズミモチ・マサキ・シャリンバイ・ヒサカキ・ヒメユズリハ・ヤブツバキのほか  
苗畑でそだてたイロハモミジ・イイギリ・クマノミズキ・カキノキ・イヌマキ・ナナミノキ・ハマボウ・ユズリハほか

ギンヤンマ (ヤンマ科)



4月から11月頃まで飛んでいて、「共生の森」を代表するトンボのひとつ。

「共生の森」が草原のころから飛んでいた。

今のシーズンは、水辺から離れた草原の草の根元や林縁の木の枝などで休んでいるのがよくみられる。草原を歩いていると、足元から、めんどくさそうに、ふらふらと飛び立つ。夏場の力強さはまだない。

クマバチ



セイヨウカラシナ に夢中



ヒトツバタゴ



オニグルミ



ニホヒガナガハナバチ シロツメクサ



ムクノキ

見かけた植物・生き物



ベニシジミ



セイヨウカラシナ モンシロチョウ



ヤマトシジミ オッチカカタバミ



シオカラトンボ



カタバミ



イモカタバミ



アメリカフウロ



カラスノエンドウ



スズメノエンドウ



カスマグサ



オヤブンルイ



ヤムグラ



ヘラオオバコ



コメツブウマゴヤシ



ミヤコグサ



イスノキ

成虫で越冬



クビキリギス(褐色)



クビキリギス(緑色)



ツチイナゴ

ナナホシテントウ



幼虫



サナギ



成虫



メスアカゲバエ



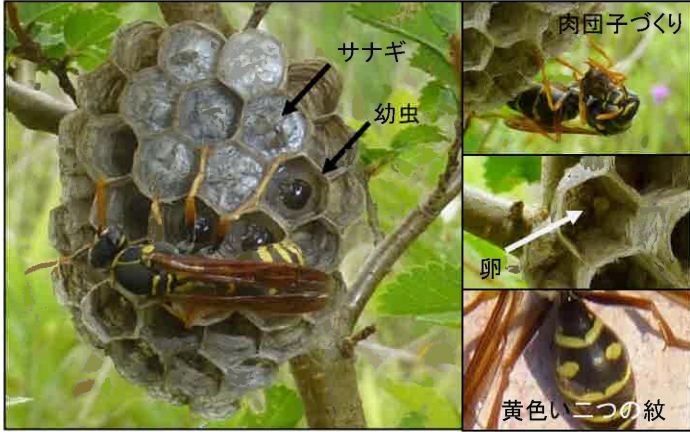
コアオハナムグリ



ナガミヒナゲシ

「共生の森」の生き物 平成27年5月31日

フタモンアシナガバチ (スズメバチ科)



オオスズメバチ



昨年から定着したもよう

「共生の森」で一番見かけることの多いハチ。草刈の時に、うっかり刺されるのも、このハチ。

この時期は、冬を越した女王蜂が1匹で巣を拡大したり、幼虫に与える肉団子を丸めたり、子育てにいそしんでいる。

働きバチが育つまで、しばらくの間は大忙し。

9月ごろには巣は拡大し、大きな巣は10cm程度になる。

名前の由来は、腹部の背中にある、黄色い二つの丸い紋から。

見かけた植物・生き物



ルリシジミ (初登場)



テングチョウ



チョウトンボ



タイリクアカネ



ギンヤンマ



ショウジョウトンボ



シオカラトンボ



アオモンイトンボ



モンシロチョウ



モンキチョウ



シモツケ



ヤマグワ



ピラカンサ コアオハナムグリ



チガヤ



ナナミノキ



マテバシ



キジ (キジ科)



「ものいわじ 父は長柄の人柱 鳴かずばキジも射られざらまし」大阪では長柄橋の人柱伝説に古くから登場する。

日本の国鳥「キジ」。ご存知のとおり、桃太郎でも大活躍。かつては1万円札の裏面にも描かれ、日本人に愛されてきた。

「共生の森」では姿を見かけることは少ないが、時々、鳴き声をきく。射られて数が減ることはないが、森林化が進むとそのうち生息数が減っていくかもしれない。

見かけた植物・生き物



マイコアカネ



タイリクアカネ



チョウトンボ



ギンヤンマ



キリギリス



トノサマバッタ



ツバメシジミ



アカタテハ



キマダラセセリ

タヌキ



ため糞の量からしてかなり増えていそう



アホヒメナムグリを捕まえたシオヤアブ



ゴマダラカミキリ



トウネズミモチ



ウイキョウ



ノラニンジン



ハナハマセンブリ



シナガワハギ



グラジオラス



オランダハッカ



オオキンケイギク



イヌホオズキ



アカバナユゲシヨウ



イヌコモチナデシコ



ネムノキ



ピロウドモウズイカ

ニイニゼミ (セミ科) 【初登場】



ニイニゼミが初登場！

地味で小柄、目立たないセミではあるが、「閑さや岩にしみいる蝉の声」と「奥の細道」に詠まれたのはニイニゼミだと云われている。

「共生の森」には植生の遷移に従って、クマゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシの順にセミがやってきた。ニイニゼミの登場でこの近辺のセミが出揃った。

近年、環境の変化から大阪の都市部では数を減らしているといわれるニイニゼミ。

「共生の森」で植えた木々が少しは、林としてニイニゼミに認められたのかもしれない。

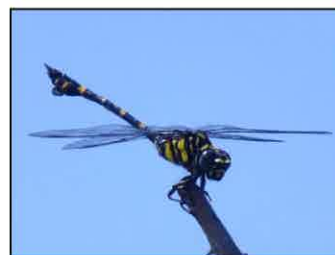
オニグルミ



キリギリス



クマバッタモドキ



台湾ウチワヤンマ



マイコアカネ

見かけた植物・生き物



センニンソウ



ワシントンヤン



フヨウ



クサギ



ノランジン と クマバチ



ヘクソカズラ



クス



メマツヨイグサ



キタテハ



ツマガロヒヨウモン



ニワハンミョウ



クマゼミ



シロモンフサヤガ 幼虫



イラガ幼虫

「共生の森」の生き物 平成27年8月31日

ウスバキトンボ (トンボ科)



ぶら下がるように止まることから他のトンボと区別がつく

ウスバキトンボは南方系のトンボで、南から北へ大移動するトンボとして知られている。東南アジア方面からやって来るといわれ、4月ごろには九州や四国に上陸し産卵、羽化を繰り返し世代を重ねながら、北上し、9月には北海道に到達する。「共生の森」では8月ごろに多くみられる。

日本にやって来たトンボは、寒さのため卵や幼虫では冬を越せず、その年に死滅する。

そして次の年、また何事も無かったかのように南方から大挙して片道切符でやって来る。

地方によってはお盆のころに現れることから精霊トンボと呼ぶところもある。

ツクツクボウシ



マイコアカネ



シオカラトンボ



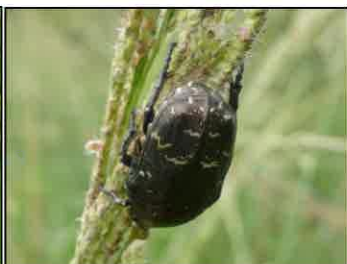
キタテハ



イチモンジセセリ



アオドウガネ



シラホシハナムグリ



ヤマトシジミ



ショウジョウトンボ



コガネグモ



ぐるぐる巻き  
ツクツクボウシを捕らえたオニグモ

見かけた植物・生き物



オオマツヨイグサ



ツクサ



フユウ



アメリカメウゼンカズラ



ヘクソカズラ



マルバハギ



カシ



ザクロ



「共生の森」の生き物 平成27年9月26日

ドロバチの巣づくり (スズバチ)



スズバチが重そうにイモムシを運んでいた。イモムシはうまく麻酔をかけられているため無抵抗。大きなアゴでがっちりと啣えて飛んでいるがイモムシに傷はつかない。

後をつけるとハチはドロの巣に到着。イモムシをどンドン穴から中に押し込んでいく。

ハチはそこに卵を産み、生まれた幼虫は親が用意した新鮮なイモムシを食べる。ハチの幼虫にとっては天国であるが、生きたまま食べられるイモムシにとってはまさに生き地獄。

スズバチはセンダンにつくフトスジエダシャククの専門家。センダンにはたくさんの幼虫がいた。



ツマグロヒョウモン

ウラギンシジミ



ゴマダラチョウ

アカタテハ

ウラナミシジミ



ヤマトシジミ

ルリシジミ

ベニシジミ



イチモンジセセリ

キマダラセセリ

モンシロチョウ



クダマキモドキ

コバネイナゴ(初登場)



ショウリョウバッタ

トノサマバッタ

マダラバッタ



マイコアカネ

ツツクボウシ

セッカ巢 卵2個

見かけた植物・生き物



キクイモ



クズ



ヒガンバナ



キミガヨラン



ニラ



キツネノタイマツ



タマスダレ



タラノキ



アキノゲシ



イヌコウジュ



タヌキ

「共生の森」の生き物 平成27年11月29日

タイリクアカネ (トンボ科)



「共生の森」に最も遅くまでいるトンボ。  
 寒くなったこの時季は、飛び回っているということではなく、日中、暖かければ道の石にとまっており、人が近づくと飛び立つ。  
 風ごはんを食べていると、やってきて、ズボンの上でひなたぼっこをしていた。  
 タイリクアカネはユーラシア大陸に広く分布しており、近畿地方では海岸沿いに多くみられるとのこと。「共生の森」では、来年、6月ころからまた見る事ができる。

クコの実



見かけた植物・生き物



ナナミノキ



フウセンカズラ



イヌビワ



トウネズミモチ



トキワサンザシ(ピラカンサ)



トベラ



キミガヨラン



セイタカアワダチソウ

気の早い花が咲き出した



スイセン



ナヨクサフジ

「共生の森」リース



マツボックリから時計周りに、ノイバラ実・ピラカンサ実・アケビ葉・ナンキンハゼ実・ツバキ実(殻)・トベラ実  
 ヘクソカズラ(ツル)

アキグミ (グミ科)



アキグミがたくさん実をつけていた。

「共生の森」には対照的な2種類のグミが生えている。5月ごろに花を咲かせ、10月頃から熟すアキグミと、10月頃に花を咲かせ、5月頃から熟すナワシログミ。

アキグミは植栽したものと、鳥が運んで広がっているものが見られる。荒地にも強く、ピラカンサやノイバラと色や大きさの、よく似た実をつけるが、ピラカンサやノイバラと比べて今のところ「共生の森」であまり分布を広げていない。



ノイバラ



ピラカンサ

見かけた植物・生き物



ナンキンハゼ



イボタノキ



ナンテン



ヘクソカズラ



カリン



トウネズミモチ

タヌキ



すっかり冬の いでたちに



ベニシジミ



ヒメアカタテハ



ムクドリ



ジョウビタキ



ムラサキカタバミ



イモカタバミ



オオキバナカタバミ



ハナカタバミ



オッチチカタバミ

モズのはやにえ (ショウリョウバッタ)

